

全国学力・学習状況調査

牛隈小学校

1.調査目的等

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

- ・目標値（国語A:105、国語B:105、算数A:105、算数B:102）

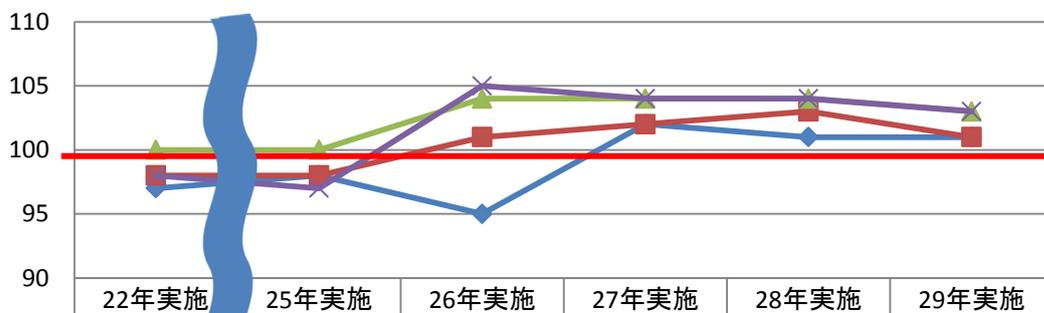
3.指標に向けての取組

- ・主体的な学習を目指す授業改善（子どもの課題追究・自力問題解決・自己決定の場づくりをし、学び方の積み上げ）
- ・ユニバーサルデザインの視点（シンプル・クリア・ビジュアル・シェア）を生かした授業づくり
- ・1単位時間の工夫（終末の適用問題、ノート作り、学習スタイルの確立、振り返る活動の設定）
- ・「言語活動」「読書活動」「体験活動」（地域のひと・もの・ことの活用）を取り入れた教育活動

4.調査結果(全国の平均正答数を100とした標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	101	101	103.0	103
嘉麻市	98	98	99	98
全国	100	100	100	100

推移



◆ 国語A	97	98	95	102	101	101
■ 国語B	98	98	101	102	103	101
▲ 算数A	100	100	104	104	104	103
✕ 算数B	98	97	105	104	104	103

5.各学校における分析

- ・算数Bにおいては目標値を上回ることができたが、国語A、国語B、算数Aは目標値を上回ることができなかった。
- ・観点別に正答率を見ると、国語A・国語Bともに、「読む能力」が低い。算数Aで正答率が最も低かった領域は「量と測定」であった。
- ・国語Aでは、「目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読むこと」に課題が見られた。
- ・算数Aでは、「数量の関係を数直線に表すこと」に課題が見られた。
- ・国語Bでは、「具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめること」に課題が見られた。
- ・算数Bでは、「示された条件を基に適切な式を立てること」に課題が見られた。

6.各学校における今後の取組

- ・全教科で、自分の考えを書いて整理する場面を設定する。
- ・課題である読解力を伸ばすために、課題に対応した研究主題「筆者の論理を読むことができる子どもを育てる国語科の学習指導」を設定し、主題研究・授業改善に取り組む。
- ・算数科においては、市統一テストの結果を基にした個別の復習プリントや算数アイテムに取り組ませる。
- ・宿題に、低正答率の内容を取り入れ、定期的に定着度をチェックする。(目標:正答率90%以上)
- ・県から配付された補充問題集(フォローアップシート)やアシストシートを積極的に活用する。
- ・上学年は、土曜未来塾と連携し補充学習を充実させ、下学年は、放課後学習を活用し基礎・基本の定着を図る。
- ・正答率の低かった問題の趣旨、改善策、既習学年などの共有化を図り、教員の意識・指導力の向上に努める。
- ・家庭学習強化週間を設定し、家庭学習時間の確保と提出率を検証する。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、以下の事項について支援する。
- 基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。
 - 個に応じた支援に向けて、学習の個別化を促進する教材の選定や提示を行う。
 - 長期休業中及び放課後等における補充学習、個に応じた学習を支援する。